

思い切って海外に
飛び出してほしい
世界を見れば
視野は必ず広がる



SPECIAL INTERVIEW

米国議会図書館 (THE LIBRARY OF CONGRESS) リサーチ・スペシャリスト

ステーン 智子

Tomoko Y. Steen, Ph.D.

アメリカ留学を機に渡米され、現在は米国議会図書館でリサーチ・スペシャリストとしてご活躍中のステーン智子さん。議会で法案作成に携わる議員に、専門の遺伝学や科学技術政策に関する情報を提供し、また、科学技術に係る文献の収集や資料の調査にも携わっておられます。本学学生への講義のために来学されたおりに行われたインタビューは、ライブラリーサイエンス専攻の第一期生である井川友利子さんと田中要江さんに、附属図書館付設記録資料館の三輪教授が加わり盛り上がりました。

このインタビューは、平成23年7月26日 福岡市のホテルニューオータニ博多で行われました

PROFILE

渡米後、コーネル大学で遺伝学と科学技術政策の博士の学位を取得。エモリー大学、CDC (Center of Disease Control and Prevention) でのポストドク等を経てハーバード大学助教授に就任。2001年2月から米国議会図書館でリサーチ・スペシャリスト。ジョンズ・ホプキンス大学で客員教授も務める。

議会図書館では、遺伝学とアジアの科学技術政策を担当

井川 大学を卒業後渡米されたとのことですが、そのきっかけからお願いします。

ステーン 卒業後は、初め東大病院の薬剤師として勤務していましたが、アメリカ人と結婚していたこともあって、コーネル大学に留学しました。小さい時から、外国人がよく家に遊びに来ていましたし、家族でよく海外旅行に出かけていたこともあって、以前から留学したいという気持ちは強かったんですね。日本の中にばかりいたら井の中の蛙になっ

てしまうんじゃないかという思いもありました。

田中 現在はどうのようなお仕事をされているのですか。

ステーン アメリカの議会図書館でリサーチ・スペシャリストをしています。主な仕事のひとつは、議会で議員が法案を作るにあたって、専門家として担当分野のサポートをすることです。私がカバーしている分野は、遺伝学関係とアジアの科学技術政策。コーネル大学で両方の博士を取得しました。また、各自カバーする言語も決められていて、私は日本語、韓国語、中国

聞き手

井川 友利子

いかわ ゆりこ

統合新領域学府
ライブラリーサイエンス専攻
修士1年
附属図書館利用支援課勤務



田中 要江

たなか としえ

統合新領域学府
ライブラリーサイエンス専攻
修士1年



三輪 宗弘

みわ むねひろ

附属図書館付設
記録資料館長・教授



語を担当しています。近年、アメリカ政府はアジアに大変興味を持っています。特に科学技術関係はアジアにシフトしているんじゃないでしょうか。私がオーガナイズしている「アジアS&T (Science and Technology) 科学技術政策」フォーラム」では、アジア諸国の科学技術参事や大臣と、アメリカの科学技術政策に関わる政府機関の所長レベルの人達を招いてディスカッションを行っています。

田中 日本では薬学を専攻されていましたが、なぜコーネル大学では、分野の異なる遺伝学と科学技術政策の博士を取得されたのですか。

ステーン 初めコーネル大学では、日本で学んでいた薬理学に近い毒物学を学ぼうと思っていました。それで、学部長に話を聞きに行ったら、私の履歴を見て喜んで受け入れると言ってくれたんです。でも、既に子供が一人いた私に、「もう一人子供を産んだら、かなりの数の論文を諦めなきゃいけない」と言うんです。日本ではそんなことを言う人でした。私は、そんなことを言う人の下で働きたくないと思って知人に相談したら、遺伝学の教授を紹介してくれました。その先生がとても講演が上手で、彼の研究内容



言われて驚きました。つまり、彼女達は成功するまでは子供を持たない。アメリカはフェミニストの国と思われていますが、実際はかなり違います。法律で女性の立場が守られている日本よりも法律の確定していないアメリカの方が厳しいと思います。

アメリカでは「お地蔵様」では通用しない

三輪 アメリカの人々は、バックボーンにキリスト教がある。一方で、とても論理的に物事を考える力に長けていますよね。

ステーン それは、教育方針によるところが大きいと思います。アメリカでは幼稚園の時から、ディスカッションができるようにロジカルに考えるトレーニングをしているんです。コーネル大学の法学部で教える私の友人は「日本人はお地蔵様」だと言います。法学部はディスカッションができなくてはいけなのに、皆同じ場所に座って黙って聞いているらしいんです。これではいけませんね。日本でも小さい頃から自分の意見をはっきり言えるような教育方針に変えていくべきではないでしょうか。

に引き込まれてしまったので、専門分野をシフトすることにしたんです。さらに、STS(Science and Technology Studies＝科学技術政策)のプログラムにも入り、コーネル大学で2つの博士を取得しました。

井川 博士を取得してすぐに議会図書館でお仕事をされることになったのですか。

ステーン いいえ。ポスドク(博士取得後の研究者)としてアトランタのエモリー大学とCDC(Center of Disease Control and Prevention)に行き、その後、ハーバード大学に助教授として招かれました。そんな時、議会図書館に勤める友人から、日本の第2次世界大戦中の科学技術資料の調査をしてくれないかと頼まれたんです。科学技術政策を学んでいて、科学史には興味があったこともあって、夏休みを利用してその仕事を手掛けたところ、私の成果やバックグラウン

フェミニストの国・アメリカの現実

井川 議員の方たちに専門のことを説明するのは大変なのではないかと思うのですが、何か心がけていらっしゃることはありますか。

ステーン 議員に限らず、科学者同士でも、他の分野の方に自分の専門のことを伝えるのは大変なんです。私はコーネル大学で、STSという博士を取得し、ここで科学者と政策立案者をどうつなげる

かを学びました。そして、どんな人にも公平な立場で教えられるようなトレーニングを受けたんです。アメリカには、宗教の関係から進化の理論を受け入れられない人がたくさんいます。そんな人達の考えをただ否定するのではなく、相手の考えを尊重しながら教えることが大事です。STSで学んだことは今の仕事に大役役に立っています。

田中 子育てをしながら、第一線の研究者として仕事を続けてこられて、アメリカと日本の文化の違いなどでご苦労も多かったのではないですか。

ステーン 大学の教師をしていた頃は、週に一度ほど大学で授業を行って、そのほかは自宅で研究の仕事ができたので、なんとか子育てと仕事を両立できていました。けれども、あるとき同僚のアメリカの女性研究者達から「子供はテニユアを得てから持つものよ」と

井川 日本の学生は、最近、海外に留学しなくなったと言われていますが、どのように思われますか。

ステーン 日本が居心地いいんでしょうね。海外に行けば、話は通じないし講義もわからない。なぜ、自分からそんな所に行かなくちゃいけないんだっていう甘えもあるんじゃないかと思いますよ。戦前や、戦後すぐに海外に渡った日本の若者には、日本を代表して行くんだという気概や、何か成果を持ち帰らなければという使命感などがありました。今はそれがありません。英語はある程度できるのに、間違うと恥ずかしいなどと言う人がいますけど、まずは、恥を捨てて話すことです。

う人もいますが、私が大学で教えているのは、自分の知っていることを若い人たちに伝えていかなければならないというミッションを感じているからです。それから、自分自身が面白いと感じていることを学生に教えて、学生もそれを肌で感じとってくれたら、それがまたすごく嬉しいし、素晴らしいことです。

井川 今後の計画などありましたらお聞かせいただけますか。

ステーン 現在、日本学術振興会からいただいた研究費で、原爆関係の資料を共同で集めています。それをもとに、社会学的・科学的

立場から原爆と今回の福島状況と比較していきたいと考えています。戦後、ABC(Casualty Commission＝原爆傷害調査委員会)というアメリカの機関が、広島・長崎で被爆した人たちの影響を調査していますが、今はこの資料を客観的に見直すことができる科学者を探しているところです。他に、日本とアメリカの生物兵器の歴史に関する資料のオリジナルが私の部署にありますので、これも調査の途中です。

三輪 様々な資料が出てくることで、誰かが資料を恣意的に利用することができなくなりますよね。

ステーン 情報研究というのは、事実を明らかにするための情報を提供するという点でも、とても大切な分野であると思います。

田中 最後に九州大学の学生にメッセージをお願いします。

ステーン 何度も言うようですが、思い切って海外へ飛び出してほしいですね。短期間でもいいから留学してほしいです。世界を見れば視野も広がります。そこに住まないとわからないこともあります。世界を見ないと日本のこともわかりません。ぜひ、日本を外から見て、これからの日本について考えてみてください。

三輪 英語は身振り手振り、ミプリッシユ、テプリッシユでいいですよ。口だけで上手に話そうとするから苦しくなる(笑)。ところでステーンさんは、今はジョンス・ホプキンス大学でも学生に教えていらっしゃるんですね。

ステーン 政府に勤めていて、勤務時間も長くそれなりのお給料をもらっている、さらに大学で教えることもないんじゃないかとい

